

教育人間科学部芸術環境創造課程造形表現コースと学校教育課程美術専修の卒業生たちと、大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修の修了生たちによる卒業制作展が開催されました。学生生活の中で多様な芸術のあり方を学んできた学生たちの集大成となる作品を展示。多くの方々に来場し、学生たちの作品に関心深く鑑賞していました。



# 制作展

# 第54回卒業

2006年  
2月6日～12日  
■  
新潟県民会館  
3階ギャラリーA

表紙掲載作品

## daily

■ 関口 優希 ■ 教育人間科学部 [洋画]

「好きで近くにおいたのに、居心地の悪さを感じる」金魚を飼った時に感じた気持ちがこの作品を制作するきっかけになりました。半透明の布でできた家の壁や屋根に拡散していく何匹もの金魚。作品の中に鑑賞者が入ることで、生活の中で自分が感じている違和感のようなもの、心地がいいのか悪いのかといった微妙な感覚を感じてもらえたら、と思いながら制作しました。

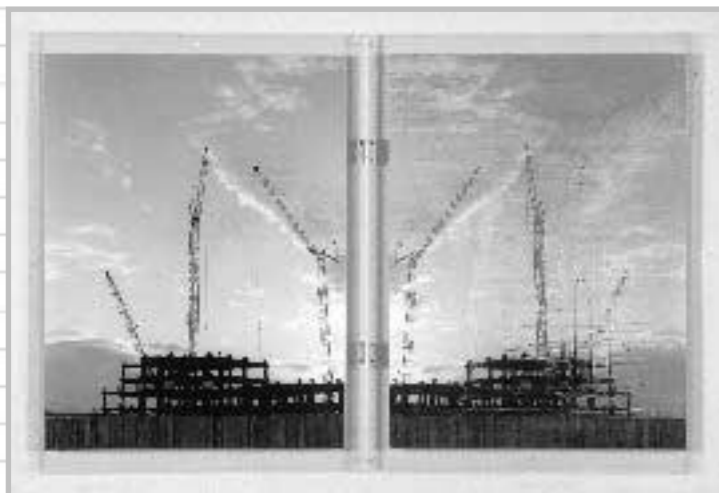


※作品全体に広がる金魚は表紙をご覧ください。

## シグナルとスケッチ vol.2

■ 半間道子 ■ 大学院教育学研究科 [洋画]

写真を撮る時、撮影者はその場に立ち合い、肌でその光景を感じ取っているはずなのに、それを後日プリントになって眺めた時に、撮った時点では気付かなかったものが印画紙に刻印されていることがある。「その場で目の当たりにした被写体」と「仕上がった写真から見る過去の印象」この2つのズレに基づき、私たちが包括する日常のあらゆる現象を確認し、またはそれらを追いながら作品化しようと考え、修了制作に取り組んだ。



## みをまかせ

■ 早川 友梨 ■  
■ 教育人間科学部 [彫塑]



素材から伝わり、感じとった流れ、動きを大切に制作しました。渦や波をモチーフに制作した3点を配置することで生まれてくる流れ、動きを表現しています。会期終了後は内野町の静田神社に、永久設置する予定です。内野町はこれらの作品を公開制作した場所

であり、住民の方々との思い出も多く、作品も私もつながりが深い場所です。末永く親しまれることを願っています。

## 徒花咲ク百二ノ枝

■ 古澤 枝里 ■ 教育人間科学部 [彫塑]

水は常に歩き続ける。  
今在る水はすでにそこにはなく、しかし何処かに存在し、  
絶えず歩き続けている。  
何故かと問う。  
水、曰く  
うつくしくあるために、と。

そんな水の存在をこの作品の周りに感じ取って欲しい。



## still life , move life

■ 高田 佳恵 ■ 教育人間科学部 [デザイン]

"still life"とは「静物」、"move life"は「動く物=人」を意味します。  
傾斜により本が片方に寄り、ばらつかない本棚"haco haco"と、有孔の座面により吸音・吸湿をもたせた椅子"on the off"を展示しています。

